

◆ 新収蔵資料紹介(令和5年度10月)展示解説シート ◆

じっせんきゅうこう
実践躬行(自ら行動せよ) ~ 有馬頼寧の書 ~
よりやす

会期: 令和5年10月3日(火)~31日(火)

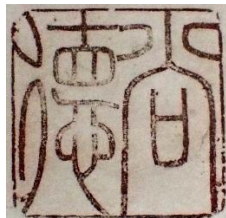
久留米市立六ツ門図書館展示コーナー

本市では、令和5年6月16日付けで光興産株式会社(大分県日田市)より有馬頼寧(1884~1957)の書「実践躬行」の寄贈を受けました。

頼寧は旧久留米藩主・有馬家14代当主で、戦前は農政学者として活動した後、農林大臣などを歴任しました。戦後は日本中央競馬会第2代理事長に就任し、中山グランプリ(現・有馬記念)を創設します。学校や奨学金制度を創設し、篤志家でもありました。「実践躬行」には“自ら身を以て実際に行うこと、まず行動せよ”という意味があります。

●有馬頼寧書「実践躬行」近代 紙本墨書扁額装

- ①印「雲煙」 ②印「有馬頼寧」 ③印「尚徳」

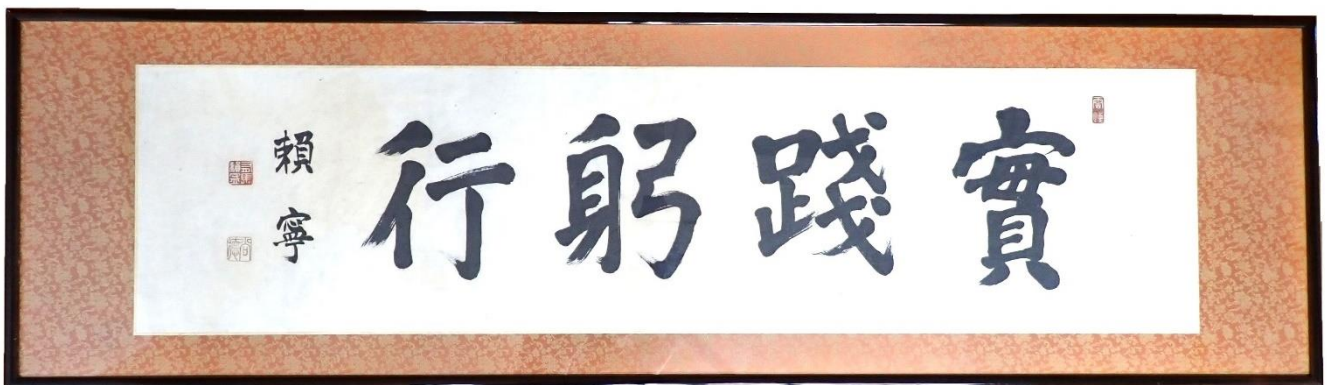


●有馬頼寧について

明治17年(1884)、有馬頼萬の長男として東京日本橋に生まれました。母は岩倉具視の五女・常子です。

学習院に学び、東京帝国大学農学部を卒業、農商務省に勤務、ほどなく東大農学部助教授に転じた。大正8年(1919)、私財を投じて労働学校の信愛学院を創設し、社会運動の先駆者とされます。同13年(1924)、久留米より衆議院議員に選出されたが、家督継承により失職、貴族院議員となりました。農林政務次官、農林中央金庫理事長、全国学農連盟会長などを務め、昭和12年(1937)6月に近衛文麿第一次内閣に農林大臣として入閣しました(昭和14年1月まで)。

昭和20年(1945)12月、戦犯容疑で巣鴨拘置所に収容されますが、8か月後に釈放、同27年4月に追放解除となりました。同30年には、日本中央競馬会理事長に就任し、中山グランプリ(現有馬記念)を創設しました。同32年(1957)没。享年72。



④全体